

聖霊に満たされる

(使徒2・1〜4)

一、五旬節の日の出来事

聖句を見てまいります。1節に「五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた。」とあります。弟子たちは、父である神の約束を待ち望んで祈っていました。そこに聖霊、すなわち神の霊が降られました。このように申しますと、ある方は疑問に思います。「神は霊であって、どこにでもおられるのに、神の霊が降るとはどういうことですか？」と。たしかに、神は霊ですからどこにでもおられます。ですが、見てください。尋常ではない形で、激しく神の霊が降り、しかもこの現象はその後にも、くり返されることになりました。4節をご覧ください。〈すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。〉とあります。聖霊、すなわち神の霊が上から降られただけではありません。〈皆が聖霊に満たされ〉たというのですから、御霊が一人ひとりに降られ、一人ひとりの内側にまでお入りになったということです。

二、聖霊に満たされるとは

聖霊に満たされるとは、どういうことなのか。霊には「満たす」と

いう性質があります。ならば、そのことに感謝して、「聖霊さま、私の内にお入りください。私の内に満ちあふれてください」と祈り求めてかまわないわけです。「聖霊さま、この教会に降ってください」と祈り求めて、大いにけっこうです。預言者エリヤは、北王国イスラエルのアハブ王、イゼベル王妃の前に、大胆な霊的な戦いに挑みました。神の霊に満たされて、四百五十人のバアルの預言者を相手に、たった一人で大胆に闘いました。ところが、悪魔的なカリスマ性を持つイゼベル王妃がたった一言、「もしも私が、あすの今ごろまでに、あなたのいのちをあの人たちのひとりのいのちのようにしなかったなら、神々がこの私を幾重にも罰せられるように」(I列王19・2)と語り、その言葉がエリヤに届くと、エリヤはへなへなになつてしまいました。そのような中で、主はエリヤに語られました。その箇所の記事は有名です。主の前に非常に激しい風が起り、山を裂き、岩を砕きました。しかし、風の中に主はおられました。風の後には、地震が起りました。しかし地震の中にも、主はおられました。しかし地震の後には、火が起りませんでした。火の中にも主はおられました。火の後に、静かにささやく声が聞こえました。主の語りかけでした。こうして、神はエリヤが行ったこと

を良しとされ、それ以上活動することをお求めせず、後継者としてエリヤに油を注ぐように語られました。こういう箇所を見ますと、五旬節の日に起きたのと反対の現象が起きていると知ります。なぜなら、激しさの中に主はおられず、静けさの中に主が現れられたからです。

私は、次のように考えます。エリヤの箇所から、「主が語られるのは激しさの中ではなく、静けさの中である」と語ることはできないと。同様に、聖霊降臨の日の出来事から、「神が現られるときは、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、それは家全体に響き渡るほどのものである」とも言えないと。要は、神のなされることを、人間が考える法則に押し込めることはできないということです。

三、聖霊とキリストのことば

使徒の働き1章8節の「しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」は、解釈が必要と思われる。聖霊が弟子たちに臨み、力が付与されるとはどういうことなのでしょう。もし聖霊の満たし、イコール力の賜物と受け止めている方がおられると、聖霊を「神の活動力」のようにしてしまっています。先

週、ニカイア信条で確認しましたように、聖霊は主、すなわち神であって、父と子と共に礼拝され、共にあがめられるお方です。たしかに聖霊は、御自身の性質からして、キリストを信じる者の内に満ちあふれてくださるお方です。ですが、聖霊は「もの」ではありません。聖霊に満たされるとは、御霊の働きによつてイエス・キリストの証人となることです。証人ですから、当然のこと、力強い証し人になります。伝道者になります。

コロサイ人への手紙3章34節に、「キリストのことばが、あなたがたのうちに豊かに住むようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、忠告し合い、詩と賛美と霊の歌により、感謝をもって心から神に向かつて歌いなさい。」とあります。聖句前半の「キリストのことばが、あなたがたのうちに豊かに住むようにしなさい」と、「聖霊の満たし」は非常に強く関係していると考えます。〈キリストのことば〉とは、イエス・キリストによつてもたらされた福音のことばだからです。イエス・キリストのことをいつも思い、「こんな私を救ってください、感謝します」「イエス様、ありがとうございます」と感謝し、口にも出す。これが、キリストのことばを自分、ないしは自分たち(教会)のうちに豊かに住まわせることです。言い方を替えるなら、聖霊に満たされていることです。